

# 編集室

\* 入試が終わり、新たな気持ちで新年度を過ごしていた5月、編集特別幹事の大役を仰せつかりました。身の引き締まる思いです。微力で、至らない点もあろうかと思いますが、御指導のほどよろしくお願い申し上げます。

\* 数年前のことです。夕方の雷雨により停電したことがありました。すぐに復旧せず20分くらい待ったと思います。あちこちで無停電電源がピーピー鳴っていたのを覚えています。

\* さて、何か仕事ができないかなと思ったところで、はたと困ってしまいました。電気がなくてもできることは？と考えると、実はいろいろなことができなくなっていることに改めて気付いたのです。

\* パソコン、インターネットを使っていなかった時代は、郵便によるやりとりであり、連絡は紙で届いていました。そういう時代なら停電でも何かしらできたと思います。しかし今はパソコンが動かないとかなりのことができなくなりました。そういう状況を受け入れて毎日を過ごしていたことを改めて思い知らされました。もちろんこの原稿もパソコン上で作っています。

\* このような情報化社会ですが、学生のレポート提出はできるだけ「手書きで」と決めています。特に実験のレポートは毎年同じ実験テーマですので、電子化されてしまうと毎年同じレポートがやってくる恐れがあります。自分で文章を考えることなしにネット情報のコピー&ペーストで済ませてしまう心配もあります。

\* 時代に逆行しているといわれるかもしれませんが、今後もこのスタイルを続けたいと思っています。しかし「手書きで」と制限したところで、結局は写して書いてくる学生はいるかもしれません。ネットのコピー&ペーストはできなくても、それを見ながら写してくることもあるでしょう。考えてみれば図書館で参考書を探してレポートを充実させようとする行為もコピー&ペーストと同じようなものです。

\* 違うとしたら、それは自らの手で書いているということとです。自分で書けば幾ばくかの知識が頭に残るであろうことを期待しているわけです。教育効果といってもよいでしょう。やはりレポートの基本は手書きで身に付けて欲しいと思います。

\* 最近、講義の黒板をデジカメで写す学生が出現してきました。私の講義はパワーポイントで次々に見せているわけではありません。黒板にチョークという昔ながらの方法でやっているのですが、なぜだかパチリ、パチリと…。

\* ほとんどの学生は板書を写し、話を聞き、ノートに書き込んでいると思います。しかしデジカメの学生は、写した画像を後でどのように利用しているのか大いに気になります。写すのが間に合わなくてバックアップで撮影していたら問題ないでしょう。プリントアウトしてノート代わりにするのはどうでしょうか。一番心配なのは、写したことで安心して何にもしないというパターンです。

\* ノートが単なる記録ならデジカメで代用できるでしょう。しかしノートは記録だけではありません。書くことで覚えるでしょう。考えもまとまるでしょう。予習復習、宿題の計算も兼ねています。デジカメだけで代用できるとは到底思えません。

\* 高度情報化社会における大学教育は今後どうするべきなのでしょう。思い切って全てOKにしてみたらどうかという思考実験も必要かもしれません。

\* 技術はどんどん進んでいます。簡単な計算はそろばんや計算尺から電卓に取って代わりました。教育効果があるのなら少しずつ変えていってもよいものもありますが、もしかしたら授業というものは最先端とはほど遠い存在なのかもしれません。

(編集特別幹事 石井孝明)